

罪人を救うために

2021年11月28日
待降節

テモテへの手紙Ⅰ 1章15節

「キリスト・イエスは罪人を救うために世に来られた」ということばは真実であり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。

ルカの福音書 19章1～10節

「……人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。」

序：教会暦では、今日から待降節

救い主イエス・キリスト

私たちは、どんなに大きな恵みによって 神の敵 ⇒ 神の子どもとされたのか

ザアカイとパウロの例

楠美智江姉妹のあかし（信仰者の日常生活） 週報裏面

I. キリスト・イエス = 神の御子、人の子

神が人となってこの世に来られた

永遠の昔からの神の御計画

神と人との唯一の仲介者（人間の罪ゆえ関係は断絶）

被害者である神の方から、手を差し伸べてくださった（神主導、あわれみ）

II. 罪人 = 失われた者 = 私たち

神に創造されながら、神から離れ、神を忘れ、無視している ⇒ 死

どこから来て、どこに行くかわからない（迷子）

何のために生きているのか、目的がない（あっても、自分の欲の満足・達成）
後は空しい

III. 捜して救うため

迷子の羊をさがす羊飼い ルカ 15・3～7

自分では帰れない、無力、自分以外の救助者が必要

羊は弱く、愚か、足もおそい、目も悪い、自分を守る手段がない

羊飼いが見つけ、助けて、連れ帰る（いるべき所へ）

IV. ザアカイ（きよし）

イエスはエルサレム途上

エリコを通られたのはザアカイのため

取税人のかしら、金持ち（不正、私服を肥やした） ローマ帝国の支配下

イエスへの好奇心 見ようとしたが妨害（人々から忌み嫌われていた）

諦めず、木に登る（恥、しかしまたとないチャンス） 上から見下ろした

イエスの呼びかけに応答する（イエスは彼の名を呼んで、客となる申し出）

喜び迎えるザアカイ、人々の妬み、つぶやき 障害物がいくつあった

回心（悔い改め、実） 自ら告白

イエスの保証（見事に救われた、ユダヤ人のひとり）

イエスは罪人ザアカイを捜し、救った（人間的には見込み薄）（神に不可能なし）

V. パウロ 使徒 9、22、26章
ユダヤ教界のエリート 生粋の由緒ある家系 ピリピ 3・4～6
教会の迫害者・主キリストを迫害 ⇒ キリストのしもべ・異邦人への宣教者
ダマスコ途上での劇的回心（復活の主と出会う、主の語りかけ）
目が見えなくなる 祈っているところに、アナニアが派遣されてパウロを支える

パウロの罪 = 福音への敵対、キリスト信者を異端と断じ、正義の刃で殺傷
先祖の言い伝えへの従順、熱心、自分を義とした ⇒ 神への背き
結局、神を知らない
∴ 「罪人のかしら」と自称 ⇒ 救われた後の完き献身

悔い改め

回復 = 視力、食事、聖霊の満たし

召命 = ユダヤ人ばかりか異邦人や王、高官たちに主の御名を宣べ伝える

宣教開始

他の使徒たちとの行き来

VI. 私たち

劇的回心ではなくても、罪人である私を捜して救ってくださったイエス・キリスト

(1)自分の罪を認め、告白した

(2)その贖い主イエスを信じ、受け入れた（罪の赦し、永遠のいのち＝新たな命）

(3)信じた時に聖霊が与えられ、内に住んで、信仰者の歩みを守り導かれる

(4)主なる神（三位一体）に従い、仕える生活、神を喜ばせる生き方
隣人を自分と同じように愛する生活

(5)ベツレヘムの家畜小屋の飼葉桶 ⇒ しもべとしての御生涯 ⇒
ゴルゴタの十字架 ⇒ 空の墓 ⇒ 昇天 ⇒ 着座 ⇒ 再臨 ⇒ 御国

狭義の救い（罪、死から）とともに広義の救い（究極、完成）をパノラマとして
見るなら、主への感謝と賛美はさらに広く深く高くなる